

新年度における教員間の関係性構築を支える ICT 活用型教員研修の効果

割石隆浩（札幌市立拓北小学校）

概要：新年度のスタートにあたり、教員間の情報共有と共通理解の形成を目的として、対話型の校内研修を実施した。事前に Google チャットを通じて話し合いたいテーマを募り、関心の高かった 4 つの話題をもとに、ワールドカフェ形式で研修を進めた。各グループにはファシリテーターと記録者を配置し、対話の内容は端末を用いてリアルタイムに記録・集約した。記録された内容は生成 AI によって要約され、振り返り資料として全体で情報共有した。また、研修後には Google フォームを活用して感想や意見を収集し、研修の意義や成果を整理した。ICT の活用を通じて、教員間の情報共有や対話的な学びが促進され、新年度における良好な関係性の構築に対する意識の高まりが確認された。

キーワード：校内研修、ICT 活用、対話的な学び、情報共有、教員の協働

1 はじめに

新年度の始まりは、教員にとって希望と緊張が交錯する特別な時期である。特に異動者や新規採用教員にとっては、学校文化や業務の流れ、人間関係への適応など、多くの不安や戸惑いを抱えやすい。一方、既存の教員にとっても、新たな組織体制の中で共通理解を図り、チームとしての一体感を高めることは、教育活動の質を高めるうえで不可欠である。本校では例年、新年度始めに教員を対象とした校内研修を実施してきたが、その多くは管理職からの伝達や事務的確認が中心であり、教員同士が率直に語り合い、互いの価値観や経験を共有するような場は限られていた。また、年度当初の多忙さや情報の一方的な流入により、教員間の認識のずれや心理的な距離が生まれやすく、特に初対面の同僚との関係構築には時間を要するという課題があった。こうした背景をふまえ、今年度の研修では「対話による関係性の構築」と「ICT を活用した情報共有の効率化」を主眼に置き、教員一人ひとりが主体的に参加できる仕組みを整えることを目指した。本稿では、ICT の活用と心理的安全性に配慮した対話型校内研修の実践を報告するとともに、その効果と今後の研修の在り方について考察する。

2 研究の方法

（１）調査対象および調査時期

本研究は、札幌市立拓北小学校に勤務する教員を対象に実施した校内研修を基にしている。

対象者は管理職を含む教員 23 名であり、研修は令和 7 年 4 月 3 日、新年度開始直後に実施した。研修終了後には、Google フォームを用いたアンケート調査を行い、参加者の感想や意見を収集した。

（２）分析方法

研修後に実施したアンケート（選択式および記述式）の回答を集計し、ICT の活用や対話型研修の有効性に関する参加者の評価を多面的に考察した。

3 研修の実施方法

3.1 テーマの募集と設定

新年度のスタートに際し、教員が抱えている疑問や不安、関心事を明らかにするため、Google チャットを通じて自由に話題を募集した。集まった内容は、研修担当者がカテゴリごとに整理し、以下の 4 つのテーマに集約した。

- ① 「黄金の三日間」で何をすべきか
- ② 4 月の教育相談をどのように進めるか
- ③ いじめの未然防止のための構造づくり
- ④ 情緒面のコントロールに課題のある児童への関わり

3.2 ワールドカフェ形式による対話設計

本研修では、教員同士が立場や経験を越えて率直に語り合える場をつくることを目的に、ワールドカフェ形式を採用した。グループ構成は数回にわたって変更し、できるだけ多様な教員同士の対話が生まれるよう配慮した。また、各

グループには固定のファシリテーターと交代制の記録者を配置し、参加者全員が発言や記録への貢献を通じて役割を持って関わる設計とした。このような対話形式は、新たに着任した教員や、初めて同じ学年や分掌に就く教員同士の関係構築に有効であり、組織全体としての一体感やチーム意識の醸成につながると考えた。

3.3 ICT および生成 AI の活用

各グループの対話内容は、記録者が端末を用いてリアルタイムに記録し、参加者は各自の端末で随時閲覧することができるようにした。研修終了後、記録された対話内容をもとに、生成 AI を活用して各テーマの要点を要約・編集した。こうして作成された要約は、研修後に全体で共有し、振り返りの資料として活用した。ICT の活用により、記録と共有の効率化を図りながら、教員一人ひとりの主体的な学びを支援することが可能となった。

4. 結果および考察

4.1 アンケート結果の概要

本研修に参加した教員を対象としたアンケートの結果、以下のような高い評価が得られた。質問①：「今回の研修は、日常の授業改善や業務に役立つ内容でしたか？」「非常にそう思う」：82.6% 「そう思う」：17.4% 「そう思わない」以下：0% 質問②：「研修で学んだことを、今後の教育実践に活かせると思いますか？」「非常にそう思う」：82.6% 「そう思う」：17.4% 「そう思わない」以下：0% 質問③：「研修の内容や進め方は、分かりやすかったですか？」「非常にそう思う」：82.6% 「そう思う」：17.4% 「そう思わない」以下：0%

これらの結果から、多くの教員が本研修を実践的かつ有意義であったと感じており、新年度における対話型の研修方法や ICT の活用が高く評価されたことが分かる。

4.2 自由記述の分析と考察

参加者の自由記述には、研修の効果や改善点に関する具体的な意見が多数寄せられた。主な

テーマごとに整理し考察する。

4.2.1 授業改善への効果

多くの教員が「異なる学年や担当の教員との対話が自身の授業改善につながる」と述べており、ワールドカフェ形式による多様な視点の交流が、授業改善に好影響を与えたことがうかがえる。また、これまで話す機会の少なかった教員同士のつながりが新たに生まれたことも、学び合いの文化形成に寄与している。

4.2.2 心理的安全性の確保

「自由に話せた」「安心して意見が言えた」といった声が多く、研修の進行方法や雰囲気が、教員の心理的安全性を高めたと考えられる。これは、役割分担やグループ構成の工夫に加え、参加者同士が互いの意見を尊重する文化が形成されたと考えられる。

4.2.3 ICT と生成 AI の活用

「AI がまとめてくれることで発言に集中できた」「リアルタイムで他グループの記録が見られた」といった意見があり、ICT の導入が研修の効率化と質の向上に貢献したことが明らかになった。生成 AI の要約は、話し合いの振り返りを容易にし、教員の意見を可視化する手段として効果的であった。

4.3 今後の改善点

一部の参加者からは、「話し合いの時間がやや短い」「テーマを絞ってより深く議論したい」といった要望もあった。今後は、対話の深まりを意識した時間配分や、参加者の関心に応じたテーマの設計が重要になると考えられる。

4.4 総合的な考察

本研修は、ワールドカフェ形式の対話と ICT・生成 AI の活用によって、教員間の相互理解と情報共有を深めることができた。特に新年度の不確実性が高い時期に、心理的安全性の高い対話の場を設けたことは、教員間の信頼関係の構築に対する意識の高まりに繋がった。今後は、時間配分やテーマ設定、ICT ツールの活用方法についてさらに洗練を図り、より質の高い校内研修の構築を目指したい。